

Spire_M

小学校版



P.2 **うたの潮流** 第4回 山田耕筰-②

唱歌・童謡研究家 竹村 忠孝

P.10 **塩化ビニール管による篠笛づくりと
日本の民俗芸能への取り組み**

二本松市立油井小学校教諭 山崎 純子

P.12 **MUSIC JAM 通信 1** MUSIC JAM KIDS 4

教育出版

うたの潮流

作家の足跡と
ともに辿る
日本のうた

第4回 山田耕筈-② [1886-1965]

山田耕筈は、米国カーネギー・ホールに於いて東洋人初の演奏会を大成功させ帰国した。すぐに帰朝会を祝ったのは、雑誌「赤い鳥」の童謡欄を担当していた北原白秋らであった。日本語のリズムを大切に詩を作る白秋、そして、日本語のアクセントを大切に曲作りをする耕筈が、日本の歌へ対する基調が合致し、月刊芸術雑誌「詩と音楽」を創刊させた。

そして、「からたちの花」「ペチカ」などの芸術性の高い童謡が生まれていき、白秋と耕筈は、信頼し合う詩人と作曲家として、「この道」なども残していった。

日本大学・法政大学講師
唱歌・童謡研究家

竹村 忠孝

index

1. 米国から帰朝の耕筈と雑誌「赤い鳥」
2. 北原白秋と山田耕筈の月刊芸術誌「詩と音楽」創刊
3. 信頼し合う「北原白秋と耕筈」の曲作り
4. 耕筈と「ペチカ」北原白秋

1. 米国から帰朝の耕筈と雑誌「赤い鳥」

大正6年(1917)に山田耕筈は渡米し、大正7年10月のカーネギーホールで自作の曲の東洋人初の演奏会を開き大成功させ大正8年5月に帰国した。築地精養軒で三木露風、北原白秋、深尾須磨子^{※1}、萩野綾子^{※2}の帰朝歓迎を受けた。

白秋は日本の音楽について、「音楽評論家たちは、原詩のもつ言葉の音楽(リズム)に対してあまりにも無関心である。」と言っている。つまり、日本語そのものにリズムがあり、そのリズムを理解されていないことを耕筈に話している。耕筈は、「日本語の語感(アクセント)を大切に曲をつくりたい。」と白秋にこたえている。そこで、日本語を大

切にしたいと思っていた白秋と日本語のアクセントを大切に耕筈は意気投合した。そして、童謡を通して日本人としての音楽を作っていこうという気持ちになったのが、帰朝歓迎会であった。

それから、翌6月22日に赤い鳥社主催の帰朝歓迎音楽会が帝劇で開催された。耕筈は舞踏詩「青い焰」「嘆」などの演奏の指揮をした。雑誌「赤い鳥」(主宰鈴木三重吉)は白秋の協力を得て、約一年前の大正7年(1918)に7月号が創刊されていた。

三重吉は子どもの美しい空想や感情を育てる詩と歌を創作する一大運動を宣言し、「世間の小さな人たちのために、芸術として真価ある純麗な童話と童謡を創作する最初の運動を起こしたいと思ひまし

※1 深尾須磨子…詩人、小説家、翻訳家、児童文学作家。与謝野晶子に師事。

※2 萩野綾子…声楽家。耕筈や白秋の作品を多く録音している。

PHOTO

日本初の西洋料理店「築地精養軒」での耕筈帰朝歓迎会
左から：深尾須磨子、耕筈、萩野綾子、白秋、露風
竹村忠孝 蔵

PHOTO

雑誌「赤い鳥」創刊号
写真提供：広島市立中央図書館

て、月刊雑誌「赤い鳥」を主宰発行することに致しました。」と述べている。この帰朝音楽会で三重吉は、「雑誌『赤い鳥』に掲載された童謡詩に曲をつくることに協力をしてほしい。」と耕笹に告げている。耕笹は、童謡欄の担当が白秋と知ると、「勿論、白秋さんとなら尚更、結構である。」とこたえている。

耕笹は、雑誌「赤い鳥」創刊の約2年前の童謡が無かった大正5年に、「新子守謡」（作詞・清水都代三）の詩に曲をつけている。この「新子守謡」のことを伝えると白秋は、

「児童本来の稟質は詩そのものだ。神秘の蔵だ。子守唄の温かさだ。揺籠のリズムだ。」と言って、耕笹が雑誌「赤い鳥」の作曲担当になってもらえることを大変に喜んだという。

新子守謡
清水都代三
とんとん とろりこ とんとろり
とんとん とろりと 鳴る音が
坊やお寝間にや まだ来ぬか
来なけりや 迎ひにまゐりましよ
海山越えて鬼ヶ島
鬼のぬね国 ねんね島

PHOTO

白秋の家（みみづくの家）にて
鈴木三重吉（左）と白秋夫妻
竹村忠孝 蔵

2. 北原白秋と山田耕笹の月刊芸術誌「詩と音楽」創刊

大正デモクラシーにより民衆による文芸は花開き、日本の民主化と共に経済格差が広がっていった。童謡は中央の子どもから地方の子どもたちまでの情操教育として、短い詩と音楽で豊かな情感を生みだす目的で作られていった。とりわけ、詩人北原白秋と作曲家山田耕笹は日本語（言葉）と日本語のアクセント（メロディ）を語感一致（つまり一音符一語主義）を前提として歌を生み出していった。その原点となる「日本語による日本の歌を」「真純なる芸術を樹つる事」そのような思いが込められた雑誌が白秋と耕笹による月刊芸術誌「詩と音楽」である。

月刊芸術誌「詩と音楽」は大正11年（1922）9月に創刊したが、白秋は、その思いを手記に書いている。

七月初旬、アルスの弟が社の牧野、本沢両君同道で大元気で私の木兎の家に来た。さうして「詩と音楽」といふ雑誌を出したい、山田耕笹氏と二人で主幹になってくれとの事であった。山田氏となら一つ大いにやって見よう。かうした機運は既に動いてゐるのだ、よからうと答へたので、大喜びでその晩は泊って翌朝帰るとすぐ指定された原稿を方々へ願つてゐるといふ手紙が来た。実に迅速で驚いた。

小田原 白秋 大正十二年八月

PHOTO

月刊芸術誌「詩と音楽」
資料提供：国立国会図書館

白秋と耕柝は、叙情的な日本人に合った美しい日本の歌を童謡という形で作って、こうと心に決めた瞬間であった。

白秋は、耕柝についてこう語っている。

耕柝、この人は明朗で、酒にも強く、健康で、才気縦横、而も円転滑脱である。偉丈夫で、而もまた俊敏軽快であり、座談にまた長じてゐる。私なども明朗闊達のもりでゐるが何としても晴天の憂鬱相を自身に感じ、鈍重寡黙であるが、この人の前に出ると何となく愈々に対蹠的となる。これはどうにもならないものだ。ただ痛飲淋漓となると、これが逆になることもある。要するに音楽と詩との差があり、その住する世界に於てしかく習性づけられてゐるかもしれない。この二人が些かの争闘もせず、提琴と弓のごとく、太鼓と撥のごとく厚情常に渝るところなきは天の配剤よろしきを得てゐると思はれる。

白秋と耕柝は、雑誌「赤い鳥」（芸術として真価ある純麗な童話と童謡を創作する）そして、月刊芸術誌「詩と音楽」（日本語の言葉のリズムと日本語のアクセントを一致させた日本人ならではの音）を目指して完成した童謡が「からたちの花」である。童謡と呼ばず、日本最初の歌曲として、現在でも多くの声楽家に歌われている。

「からたちの花」について、白秋は、詩文集「緑の触覚」でこう言っている。

私には私としての幼時の追憶や、小田原水之尾で見た必然的なからたちの花の縁由がある。「からたちの花」は大正十三年五月十三日の作である。妻は手記「大変静かなよい詩で珍しい行き方、矢張りその花に即しゐるからであらう。」と書いてゐる。形式の新味は短歌長歌或は詩の五七の基調を主として取つたからである（各二行目で三三三四として一音多いが）童謡で五七調を試みて、今までにない幽韻を出さうとしたのは私がはじめてである。

と新しい詩調だと言っている。

創作された場所は、小田原の水之尾（みずのお）への道で、大正13年5月13日、白秋と妻菊子、2歳になっていた長男隆太郎はいつものようにこの道（現在、白秋の散歩道として小田原市で整備されている）へ散歩に出掛けた。

「隆太郎、隆太郎、ほら、からたちの花が咲いたよ。白い白い花が咲いたよ。からたちの棘は痛いんだよ。青い青い針のような棘だよ。（中略）からたちも秋になると生るんだよ。丸い丸い金の玉のような実なんだよ。」このように話し言葉でつくられている。

PHOTO

小田原の水之尾への道
竹村忠孝 撮影

からたちの花 北原白秋

からたちの花が咲いたよ。
白い白い花が咲いたよ。

からたちのとげはいたいよ。
青い青い針のとげだよ。

からたちは畑の垣根よ。
いつもいつもとほる道だよ。

からたちも秋はみのるよ。
まろいまろい金のたまだよ。

からたちのそばで泣いたよ。
みんなみんなやさしかったよ。

からたちの花が咲いたよ。
白い白い花が咲いたよ。

耕柝にも少年時代のからたちの花の思いがあり、それも重なり、耕柝は作曲にとりかかった。元来の日本語のアクセントは長唄や口上でのリズムであり、イタリアのオペラでは無いと耕柝は常々思っていた。そこへ、耕柝が目を通して感銘を受けたのが、「からたちの花」の詩であった。

日本語のアクセント、感情ポーズ（間）、句読点を特に考え、アウフタクト（Auftakt・ドイツ語）の手法で曲を作りはじめた。特に、拍の頭の「か」や「さ」は低く、「よ」は高い。

この詩の素晴らしいところは、からたちのそばで泣いたよ、という場面。泣くということは通常の詩では悲しくて泣くを書くが、白秋は、みんなみんなやさしかった、みんながやさしくて泣いたところにこの素晴らしさがある。そこを耕柝は、特にやさしさを表す *ppp*（ピアノッシッシモ）を使っている。

3. 信頼し合う「北原白秋と耕柝」の曲作り

耕柝は、白秋が亡くなった（昭和 17 年 11 月 2 日逝去）後の追悼文で白秋の詩を絶賛している。

歌曲の創作に於ては詩人は夫であり作曲者は妻と呼ばれるべきであらう。その夫にさき立たれた、妻たる私の悲みは深い。私は白秋との生活に於て実に数多くの歌曲を生んだ。が、今やその白秋は幽界十年の歸らぬ旅にあるのだ。白秋は時に暴君であつた。然し、それが私にとっては無常の喜びでもあり、快い刺激ともなつたのだ。人は白秋を言葉の魔王と言ふ。が、私は、白秋はまたリズムの魔法使でもあると言おう。白秋の詩は言葉の世界から仙遊して天中に通達するのだ。文字の領域から飛翔して音楽と化してしまふのだ。白秋の詩はまた可視的な音楽だ。それは文字によって編まれた交響詩であり、狂詩曲でもある。時にショパンの麗緻と繊細さで語るかと思へば、ベートウヴェンの雄渾さをもって人に迫るのである。

この追悼文から遡ること 24 年前の大正 10 年に浅間山麓の旅で、白秋は詩「落葉松（からまつ）」をつくっているが、この詩に曲をつけるには耕柝に見ていただかないと承諾できない、ということを大正 11 年 8 月の手記で語っている。それは、月刊芸術誌「詩と音楽」創刊の一ヶ月前である。

落葉松

北原白秋

一

からまつの林を過ぎて、
からまつをしみじみと見き。
からまつはさびしかりけり。
たびゆくはさびしかりけり。

二

からまつの林を出でて、
からまつの林に入りぬ。
からまつの林に入りて、
また細く道はつづけり。

....

八

世の中よ、あはれなりけり。
常なれどうれしかりけり。
山川に山がはの音、
からまつにからまつのかぜ。

《ある作曲家へ》

「落葉松」は象徴風の実に幽かな自然と自分との心状を歌ったつもりです。これはこのままの香を香とし、響を響とし、気品を気品として心から心へ伝ふべきものです。何故なら、それはからまつの細かな葉をわたる冷々とした風のそよぎ、さながらその自分の心の細かなそよぎでありますから。で、これを歌声にして歌へばもうその香ひも響も消えて了ふのです。(中略) 貴方はこの第三番をどうした間違いか民謡風に作曲してられます。本質上決して民謡風に取り扱われるものではないのです。あまりに違ひます。民謡になつたらもうこの詩はおしまひです。情なくて泣けさうです。(中略) 兎に角、貴方が私の詩を愛好して下さること、作曲して下さる熱意この並々ならぬ機縁については十分に私も欣びとします。然し、貴方の詩に対する見解が根本に於て非常の誤謬があると云う事を悲みます。で、声楽の為の作曲は純情の沙小曲とか、民謡とか童謡とか、新様の唱歌とか、さうしたものを選ばれるが本当です。従つて、作曲なさる前に今一度、詩といふものに就て、深く御研究なすつて一先づ十分の理解を得られる事を切に希望します。兎に角、貴方に技術だけでなく、芸術に対する知識をもっと深くもっと広く修めて、(中略) もう一つ申しますと伴奏の無いのは困ります。それに小曲でも単純化だけでは困ります。複雑な単純化、つまり充ちてゐる単純が大切です。アクセントにも日本の固有性に重きを置いて戴きたいのです。なほ、作曲といふことですが、貴方一人で作曲して楽しんで下さる事について、私は何の意義もありません。ただ、対世間の事になると、山田耕筈氏にでも一応見ていただいた上でない、一寸御承諾しにくいといふことを御答にします。出版とてもその上の事です。ただ御忠告したいのは、さうした対世間の事について焦慮なさる余裕を今少しく知識と創作の聚積に向け変えて欲しい事です。

大正十一年八月 相州小田原 白秋

このように、白秋と耕筈は、お互いに、深い理解のもとに、厚く信頼し合つて曲作りをしていたと考察する。

白秋が、「落葉松」の詩について書いた詩文があるが、この詩文を耕筈に話したという。耕筈は、この詩文を書き写し、「落葉松」の詩とこの詩文を理解できるまで、毎日、読んでいたようだ。

落葉松の幽かなる、その風のこまかにさびしく物あはれなる、ただ心より心へと云ふべし。また知らむ。その風はそのささやきは、また我が心の心のささやきなるを、読者よ、これらは声に出して歌ふべきものにあらず、ただ韻(ひびき)を韻として、句を句とせよ。

北原白秋

PHOTO

耕筈と白秋
竹村忠孝 蔵

4. 耕笹と「ペチカ」 北原白秋

PHOTO

詩集「子供の村」に掲載された「ペチカ」

画：深澤省三

資料提供：日本近代文学館

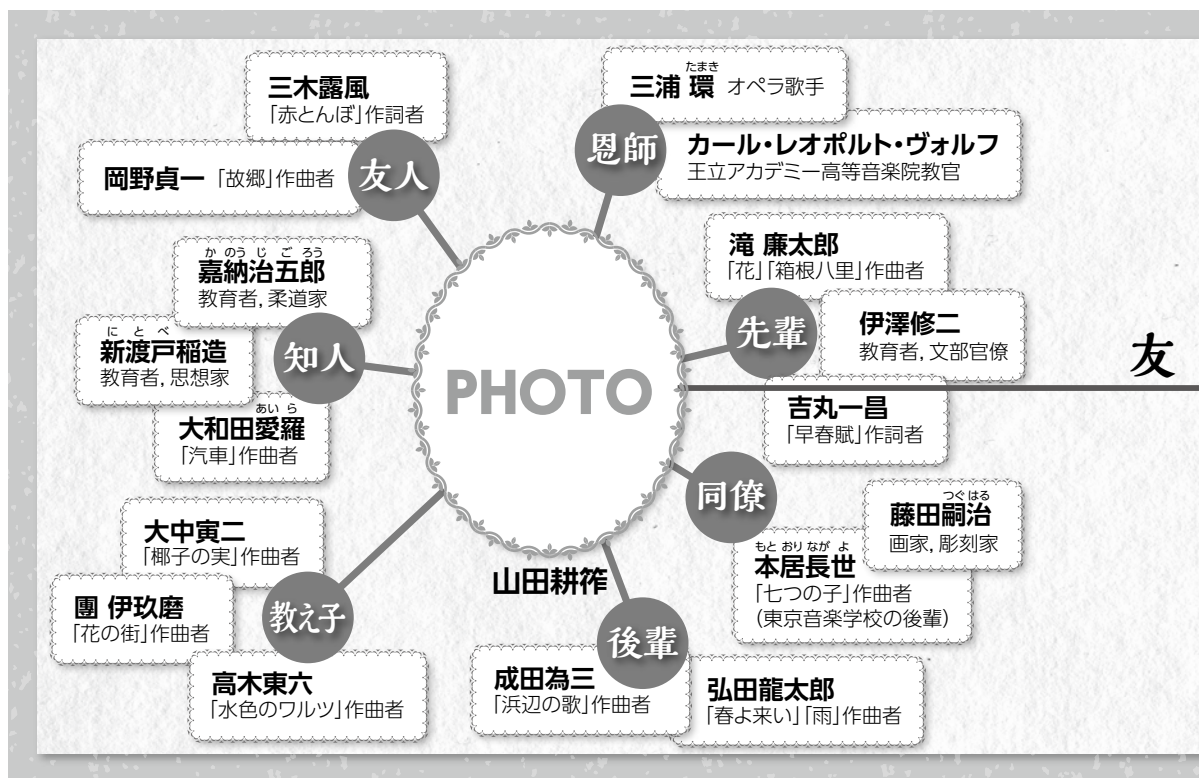
大正12年8月に山田耕笹は、ハルビン交響楽団のマネージャー原善一郎（原三溪の長男）から、指揮者の依頼を受け、ハルビンへ渡ることになった。月刊芸術誌「詩と音楽」で親交が厚くなった北原白秋は、弟子の大木惇夫を伴い耕笹を見送った。それから半月後の9月1日に関東大震災が起これ、震源地に近い小田原の街のほとんどの建物は倒壊し、白秋が暮らす天神山（現城山4丁目）にある「みみづくの家」も半壊した。余震が続く白秋一家は、「みみづくの家」が倒壊の恐れもあり、附近の竹林で一時暮らした。半壊した「みみづくの家」に戻るが、秋も深まる頃になると一段と寒さが増してくる。そこへ、南満州教育会から、満州に暮らす子供達に童謡をつくってほしいという依頼が白秋と耕笹のもとに届いた。満州という場所に行ったことがない白秋は、関東大震災の後すぐにハルビン（白系ロシア人も暮らしている）から東京に戻っていた耕笹にすぐに連絡をとり相談した。耕笹の提案で題名「ペチカ」（満州やロシアで使われている暖炉）が決まった。白秋は、半壊した「みみづくの家」の中で、外は吹雪いているけれど家の中は妻菊子、1歳の長男隆太郎がいて温かいと感じながら、「ペチカ」の詩を書いた。

耕笹は後にペチカのロシア式暖炉の正しい発音が「ペイチカ」だと知り、歌唱のときは「ペイチカ」と歌うように書き直している。

耕笹は、この「ペイチカ」の歌い方を、「作曲者の演奏についての注意」として次のように言っている。

発想の規準は伴奏部に従う方が便利であるが各節の詞意によって色々の変化をもたせること。「雪の降る夜は」は話すようにし、「楽しいペイチカ」のペイチカでペイをやや抑えて歌う。次の「ペイチカ」から「お話ししましょ」まではもえろよ、おはなししましょ、と順次弱く消えるように歌う。（中略）「むかしむかしよ」は遠くからきこえて来るような風に。そして最後の「燃えろよ、ペイチカ」では、燃えろよと漸弱して、一寸息を入れ、ペイチカと静かに結ぶ。

山田耕笹



耕筰の肖像写真：日本近代音楽館 蔵

5. 対訳

雪のふる夜はたのしいベチカ。

ベチカ燃えろよ。誰だか来ます。

お客さまでしょ。

うれしいベチカ。

雪のふる夜はたのしいベチカ。

ベチカ燃えろよ。お話しましょ。

火の粉ばちぱち、

はねろよ、ベチカ。

雪が降っている夜は寒く、家族みんながベチカに集まってるの団欒は楽しいです。

寒くならないようにベチカは燃えててよ。誰かが家に来て来ますので。

お客様が来たのでしょうか。また賑やかになって嬉しいなあ、ベチカのお陰です。

雪が降っている夜は寒く、家族みんながベチカに集まってるの団欒は楽しいです。

寒くならないようにベチカは燃えててよ。ベチカを囲んで楽しいお話しをしましょう。

燃料を込めて、もっと温かくすると火の粉が舞ってばちぱち音をたてています。

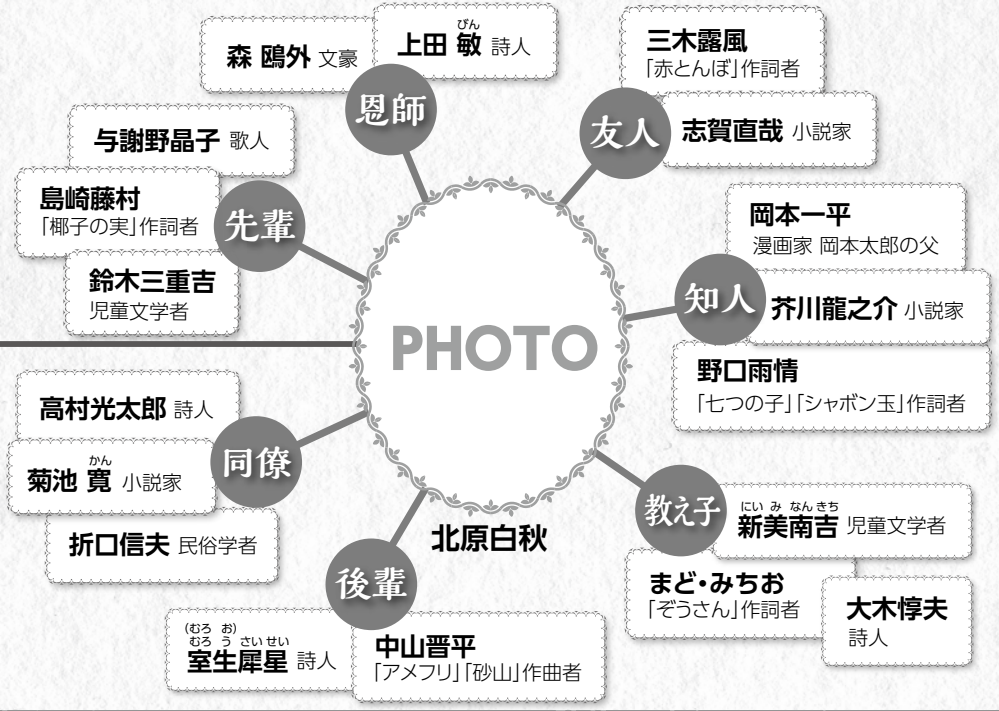
もっと燃え上がって火の粉を跳ねあげて部屋を温めてよ、ベチカを囲んでの談笑は楽しいです。

「栗や栗やと呼びます」…満州では、我が国の石焼き芋売りと同じように、栗を売り歩いていた。

「じき春来ます。」…原詩は「もうちはるよ」。

相関図

人



白秋の肖像写真：日本近代文学館 蔵（田中善徳 撮影）

ペチカ 北原白秋

雪のふる夜はたのしいペチカ。

ペチカ燃えろよ。お話しましょ。

むかしむかしよ。

燃えろよ、ペチカ。

雪のふる夜はたのしいペチカ。

ペチカ燃えろよ。おもては寒い。

栗や栗やと

呼びます。ペチカ。

雪のふる夜はたのしいペチカ。

ペチカ燃えろよ。じき春来ます。

いまに楊も

萌えましょ。ペチカ。

雪が降っている夜は寒く、家族みんながペチカに集まっただけは楽しいです。

寒くならないようにペチカは燃えててよ。ペチカを開んで楽しいお話しをしましょう。

昔の話しや懐かしい話しをしましょうよ。

寒くならないように燃えててよ、ペチカ。

雪が降っている夜は寒く、家族みんながペチカに集まっただけは楽しいです。

寒くならないようにペチカは燃えててよ。外は寒いからね。

外から「栗やー栗やー」と、栗も温かいですよと呼んでいる栗屋さんの声が、ペチカまで聞こえてきます。

雪が降っている夜は寒く、家族みんながペチカに集まっただけは楽しいです。

寒くならないようにペチカは燃えててよ。もうすぐ春がきますから。

もうすぐ、楊（やなぎ）の芽も出てきますので、それまで燃えていてくださいな。ペチカ。

塩化ビニール管による篠笛づくりと日本の民俗芸能への取り組み

二本松市立油井小学校教諭 山崎純子

はじめに

篠笛は、日本の民俗芸能や伝統音楽である歌舞伎でも演奏される楽器です。最も長い一本調子の笛から最も短い十二本調子まで12種類の笛があり、一本調子の篠笛の音が最も低く、二本調子、三本調子と調子の順に半音ずつ音が高くなります。箏や尺八が一部の階層の楽器であったのに対し、篠笛は日本の民俗芸能の中で、かつては手作りされ演奏されてきた庶民の楽器でした。現在、全国で多くの民俗芸能の継承が難しくなっており、その大きな原因の一つに「笛の伝承の難しさ」があります。学校教育では昭和33年の『小学校学習指導要領』から「日本の音楽」の取扱いが示され、その後の2回の改訂でも示されました。平成元年の改訂から旋律楽器として「和楽器」を、さらにこれに加えて、平成10年の改訂から打楽器として「我が国に伝わる様々な楽器」を扱うことが示され¹、意欲的な先生によって箏や和太鼓、時には尺八を子どもたちが体験するという実践が行われてきました。箏や和太鼓を、子どもたち一人ひとりに準備することは難しいですが、篠笛は塩化ビニール管（以下塩ビ管）で作ることができるので、子どもたち全員がマイ楽器として持ち、吹くことができます。教師の工夫によっては、篠笛を吹くことで、芸術的な日本の伝統音楽や日本の民俗芸能に触れることが可能になるでしょう。

どのように篠笛を作り、音を出せるようにするか、何を教材として取り組んでいくとよいか、実践するために大切だと思うことを、私の実践とともにご紹介したいと思います。

1. 塩ビ管による篠笛づくり²

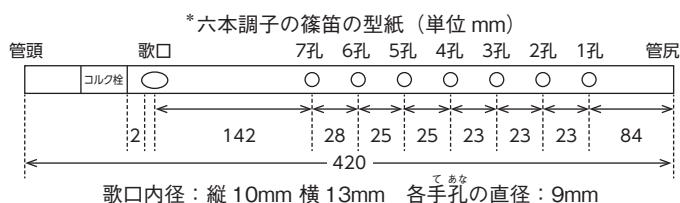
篠笛は、本来竹で作るものです。しかし材料の竹を手に入れることは難しく、小刀で穴を開けるので中学生以上でないと作ることはできません。竹に代わる材料として塩ビ管があります。塩ビ管であれば、ボール盤を使ってドリルで簡単に穴をあけることができます。小学生でも作ることができます。



塩ビ管で作った篠笛

1) 材料と道具

- 内径 13mm の塩ビ管
- 直径 15mm のコルク栓
- 型紙* ●卓上ボール盤
- ドリルの刃 ●ヤスリ



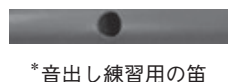
2) 笛づくりの手順

- ① 塩ビ管を型紙どおりの長さに切り、管尻から長さを測り印を付ける。
- ② ボール盤を使ってドリルで指定の直径の穴をあける。
- ③ コルク栓を、歌口の2mm手前の位置につめる。
- ④ 棒に紙ヤスリを巻き付けて内側のバリを取り、笛全体をヤスリで磨く。

私は、地域の民俗芸能で使われている六本調子の篠笛に合わせて、型紙を作りました。平成28年度版中学校音楽教科書『中学器楽音楽のおくりもの』（教育出版）には、塩ビ管による八本調子の篠笛の設計図とその作り方が掲載されています。八本調子の篠笛は、各地の祭りなどで多く使われています。私は、一昨年小学2年生と笛を作り、手作りのマイ篠笛を手にした子どもたちはとても喜び、手にしたとたん吹き始め、休み時間や家に持ち帰ってまで練習するようになりました。

2. 篠笛の指導法

篠笛で難しいのが音出しです。初めから右手を乗せると、手の重みで唇と歌口の位置がずれやすく、上手く音が出ないのです。そこで、私は、音出しの練習のために、写真のような短い歌口だけの笛を作りました*。長さは約10cm、篠笛を作った時に残った塩ビ管で作ることができます。音出しの練習は、以下のようにして行いました。



*音出し練習用の笛

1. 歌口だけの短い笛の歌口の両側を持ち、歌口と唇の位置を意識しながら、唇を横に引き、息を入れる。歌口の角度や息の量を調節しながら、よく音が鳴るところをさがす。
2. 歌口と唇の関係がつかめたら、塩ビ管の篠笛で、歌口の両側をつかんで一息で長く吹く。
3. 右手を笛の手孔にのせて、左手の第7孔から1つずつ穴をふさぎ、1音ずつ練習をしていく。この時、右手の重みで笛が傾き唇の位置がずれやすいので、笛を水平に保つことを意識させる。
4. 2音以上吹けるようになったらわらべうたなどを吹き、タンギングせず指を打つ奏法（さし指）を学ぶ。

楽器に取り組む時大事なことは、まず教師自身が演奏できることです。少し時間や努力が必要ですが、篠笛も教師自身が習い上手に吹けるようになることが、子どもへの指導を確かなものにします。

3. 教材について

実践に当たって先生方が悩まれるのが、何を教材にしたらいかということだと思います。歌舞伎の篠笛を吹くことは難しいので、庶民の民俗芸能である祭りの笛を吹くのがよいと思います。

幸い私が勤務する学校の近くには祭り囃子があり、子どもたちは、そこで演奏している方から直接教えていただくことができました。身近に民俗芸能がある時は、それを教材としましょう。地域の方から直接教えていただくことで、子どもたちの意欲も高まります。教師は、祭りで笛を吹く人を探し、まず自分が囃子を教えてもらい吹



地域の方から囃子の笛を学ぶ子どもたち

けるようにします。祭りの囃子には楽譜はなく、毎回伝承者から教えていただける訳ではないので、教師は第2次継承者として、子どもたちに伝えることができるようになることが大切です³。地域に民俗芸能がない場合は、先生方が直接学びに行きやすい近くの民俗芸能を、それも難しい時には日本の有名なお祭りを取り扱うのが、子どもたちが親しみを持つことができるのでよいでしょう。この場合も、教師自身が実践の前に現地を訪れ、その芸能を体感し映像に撮り、授業では教師の実演や語りと共に映像から子どもたちが学ぶという、より直接に近い形で学ぶことが大切です。

おわりに

昨年、篠笛を作った子どもたちは、塩ビ管に穴が開くたびに歓声をあげ、できあがるとすぐに吹き始め、自作の楽器を手にしたその顔は喜びに満ちていました。吹き方を学んだ後地域のお囃子を鑑賞したことで、自分たちも吹いてみたいという思いが高まり、地域の方から直接教えていただいた時には、手元を真剣に見つめ目を輝かせながら学び取って行きました。日本の民俗芸能をカリキュラムに位置づけ教師が工夫して取り組むことは、子どもたちの豊かな音楽体験と文化理解につながります。篠笛を通して、手から手へと伝わってきた日本の民俗芸能にぜひ取り組んでほしいと思います。

参考資料等

- 1 国立教育政策研究所『学習指導要領データベース』. <https://www.nier.go.jp/guideline/>
- 2 塩ビ管での篠笛づくりは、30数年前に岐阜県恵那市立恵那西中学校の田中吉徳、愛知県犬山市立東小学校の山田隆が実践し、福島大学の降矢美彌子が大学のカリキュラムに取り入れ実践している。人間国宝四代目寶山左衛門が、国立劇場の黒御簾の中でこの篠笛を演奏した時に、観客はその音色を本物の篠笛だと思ったという。
- 3 降矢美彌子（2009）『地球音楽の喜びをあなたへー未来の地球市民となる子どもたちのための多文化音楽教育ー』現代図書

MUSIC JAM 通信①

2018年 教育出版 **新** 曲集 MUSIC JAM KIDS 4

小学生のための合唱曲集「MUSIC JAM KIDS 4 (ミュージック・ジャム・キッズ4)」が2018年5月(予定)に発売されます。掲載されている11曲全てがこの合唱曲集のために書き下ろされた作品です。今号の「MUSIC JAM 通信1」では、合唱曲集と併せて発売される範唱CDのレコーディングの様子をレポートいたします。



「MUSIC JAM KIDS 4」掲載曲ラインアップ

夢のはじまり 作詞 志貴忠弘 作曲 西澤健治

TODAY 作詞・作曲 坂田めぐみ 編曲 森永千代子

虹色タン布林 作詞 トモ子 作曲 水野弥生

夢色シンフォニー 作詞 rino 作曲 赤尾 暁

トゥルー 作詞 森 由里子 作曲 小林啓樹

Thanks My Friends 作詞 森 由里子 作曲 西澤健治

ゆき 作詞 川崎 洋 作曲 瑞慶覧尚子

6月に寄せて 作詞 鈴木須美子 作曲 菅野夏生

冒険者 作詞 金子麻友美 作曲 名田綾子

あしたのボクへ 作詞 マイクスギヤマ 作曲 梅本由紀

僕らの日々 作詞・作曲 池田綾子



この中から「夢のはじまり」「トゥルー」「Thanks My Friends」の3曲が、2018年1月に金田典子指揮、NHK 東京児童合唱団（ピアノ 古高晋一）によってレコーディングされました。

このレコーディングに参加
してくださったNHK 東京
児童合唱団の皆さん



NHK 東京児童合唱団常任指揮者
金田典子

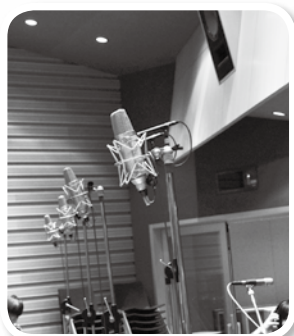


NHK 東京児童合唱団客員ピアニスト・講師
こ たかしんいち
古高晋一

NHK 東京児童合唱団

NHK 東京児童合唱団は 1952 年に、NHK の教育番組と子ども番組の充実を目的として設立されました。NHK のさまざまな番組への出演をはじめ、海外の合唱団との交流や国内主要オーケストラとの共演など幅広く活動しています。1972 年からは定期演奏会を開催し、邦人作曲家へ積極的に委嘱をするなど、この合唱団から数多くの作品が生まれました。

現在はジュニアクラス（小学 2 年生～小学 4 年生）とシニアクラス（小学 5 年生～中学 2 年生）の、合わせて 180 名ほどの団員を擁し、それぞれの年齢にふさわしい表現とレパートリーに取り組んでいます。卒団生を中心とした「ユースシンガーズ（中学 3 年生～大学生の女声）」「ユースメンズクワイア（中学 3 年生～大学生の男声）」も活動しています。



録音前の声出し



録音中。
コントロール・ルーム
から撮影



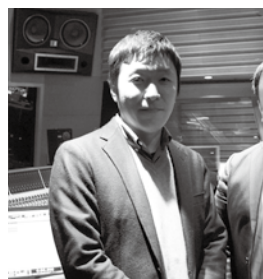
プレイバックをチェックする
作家陣、指揮者、ピアニスト

作曲家からのメッセージ

小林啓樹さん 「トゥルー」

こんにちは。「トゥルー」を作曲しました小林啓樹です。この曲は、友だちとの出来事を歌った、元気あふれる曲です。合唱に加えハンドクラップ（手拍子）も入っています。ぜひチャレンジしてみてください。歌う上で難しいところは、テンポが速いことです。歌詞にある「トゥルルル」と歌うところなど、場所によっては口が回らないかもしれません。早口言葉のように音程をなくし、しゃべる練習をしてから歌いましょう。手拍子は、手拍子隊と歌う隊に分かれ、やってみるのもオススメです。

この曲を通して、皆さんの弾けるような元気とパワーが一つとなり、仲間との一体感を感じるひと時になってくれたら、とても嬉しいです。



こばやしけい き
小林啓樹さん

西澤健治さん 「夢のはじまり」 「Thanks My Friends」

今回は2曲の新曲「夢のはじまり」「サンクス マイ フレンズThanks My Friends」を書きました。「夢のはじまり」はいつも勇気と希望を持ち続け、“夢に向かって進んで行こう！”という非常に躍動感に満ちた曲です。少し落ち込みぎみかなあ？そんなときにはぜひこの曲を！きっと元気になれると思いますよ。そして「Thanks My Friends」は、「ドラゴンボール」など数多くの楽曲を提供している作詞家、森 由里子さんとのコラボ作品です。「夢を胸に未来へ進む、でもいつもひとりじゃなく、そばに大切な友だちがいる」という内容の歌詞を合唱曲にしました。サビ部分の Thanks My Friends ですが、Th の発音に留意してみるとよいでしょう。今日はいよいよ都内レコーディング・スタジオにて、この2曲の合唱録音です。楽譜に生命が吹きこまれ、いよいよ楽曲の誕生の瞬間!! 「それではテイク・ワン！」のディレクターの合図でスタート。演奏者もわたしも、期待と緊張でワクワク、ドキドキ。演奏者とのコミュニケーションを何度も繰り返し、無事レコーディング終了しました。今、自分たちができる最高の力を振り絞って一生懸命演奏してくださった合唱団のみなさん、スタッフ、そして関係者の方々に心より御礼申し上げます。



西澤健治さんと「Thanks My Friends」を作詞した森由里子さん



次のテイクに向けて作曲家の指示を聞き取る合唱団の皆さん

小学生のための合唱曲集 MUSIC JAM KIDS シリーズ1, 2, 3 発売中!



MUSIC JAM KIDS 1

「U&I」 若松 欽 作詞・作曲
 「鳥になって」 瑞慶覧尚子 作詞・作曲
 「夢色マシーン」 うらん 作詞 富沢 裕 作曲
 「Rainbow Sky」 うらん 作詞 赤尾 暁 作曲
 「不思議の ZOO」 武藤 京 作詞 大畑みどり 作曲
 「たべられちゃった!」 若松 欽 作詞・作曲
 「空にむかって」 若松 欽 作詞・作曲
 「ゆけゆけ ロケット!」 若松 欽 作詞・作曲
 「いのち」 小海永二 作詞 西澤健治 作曲 他
 B5 判 全 18 曲 税込み 977 円



範唱とカラオケを
収録した CD も発売中!
税込み 3,086 円



MUSIC JAM KIDS 2

「崖の上のポニョ」 近藤勝也 作詞 宮崎 駿 補作詞
 久石 譲 作曲
 「来る来る春が来る」 坂田おさむ 作詞・作曲
 「ヒミツのこみち」 磯野 晃 作詞・作曲
 「飛べよツバメ」 人見敬子 作詞 西澤健治 作曲
 「笑顔でいよう」 池田綾子 作詞・作曲
 「明日を信じて」 小林真人 作詞・作曲
 「花になる日」 井上喜久子 作詞・作曲
 「未来への賛歌」 中田留美 作詞 佐治和太 作曲 他
 B5 判 全 15 曲 税込み 823 円



範唱とカラオケ
 (「来る来る春が来る」「ヒミツのこみち」)
 を収録した CD も発売中!
 税込み 2,571 円



MUSIC JAM KIDS 3

「レッツ テイク ア チャンス」 西澤健治 作詞・作曲
 「とびらを開いて」 阿武 唯 作詞 菅野夏美 作曲
 「夢みるムーン」 高頭 潔 作詞 赤尾 暁 作曲
 「ラティティ」 あだち ひろたか 作詞 坂元 優 作曲
 「南のマジック アイランド」 高頭 潔 作詞
 赤尾 暁 作曲
 「ゆき」 草野心平 作詞 新実徳英 作曲
 「パワー オブ ドリーム」 中田留美 作詞
 海原真也 作曲 他
 B5 判 全 12 曲 税込み 864 円



範唱とカラピアノを
収録した CD も発売中!
税込み 2,592 円

お問い合わせ: ☎ **03-3238-6908** FAX **03-3238-6999**
 右の QR コードから web サイト曲集・CD のページへアクセスいただけます。





第16回

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2018年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2018年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境 や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交 流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催／教育出版 ◎協賛／日本環境教育学会
◎後援／環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



教育出版

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



地きゅうをまもっている木

この絵は、人間が作り出したわるい空気を、木がきれいな
空気にかえているところをそうぞうしてかきました。
大きな木の中に、うちゅうがあり、そして、わたしたち
がすむ地きゅうがあります。
わるい空気は、水を多くふくませてかきました。

小学音楽通信 **Spire.m** [2018年 春号] 2018年3月31日 発行

表紙写真：NHK 東京児童合唱団の皆さん

編集：教育出版株式会社編集局 発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

印刷：大日本印刷株式会社 発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

03-3238-6864 (内容について)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

03-3238-6901 (配送について)



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL : 011-231-3445 FAX : 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一ビルディング 3F TEL : 0138-51-0886 FAX : 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL : 022-227-0391 FAX : 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL : 052-262-0821 FAX : 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL : 06-6261-9221 FAX : 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL : 082-249-6033 FAX : 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL : 089-943-7193 FAX : 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵 2-11-30 クレセント東福岡 E 室 TEL : 092-433-5100 FAX : 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F TEL : 098-859-1411 FAX : 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」の通り、配付を許可されているものです。